

「将来働く目的や理由」の項目収集と分類 —仕事価値観尺度作成に向けて—

○菅原宏明 (筑波大学大学院)

櫻井茂男 (筑波大学)

キーワード：仕事価値観，キャリア教育，KJ 法

問題と目的

「何のために働くのか」という価値観は、「どのように生きていくのか」といった人生に対する価値観と不可分である。このような仕事に対する価値観は，キャリア教育では「勤労観」や「職業観」として，形成することが 1 つの目的となっている（文科省中教審，2011）。一方，本邦においては中高生の「何のために働くのか」という価値観を正確に測定する尺度は開発されていない。

そこで本研究では，仕事価値観尺度を作成する前段階として，「将来働く目的や理由」についての項目収集と分類を目的とした。

方 法

手続き 関東圏の公立中学校に通う中学 1，2 年生 99 名（男性 53 名，女性 46 名，平均 13.64， $SD=0.50$ ），公立高等学校に通う高校 1，2 年生 72 名（男性 29 名，女性 41 名，平均年齢 16.37 歳， $SD=0.59$ ），国立大学に通い，教職必修科目を履修する大学生 51 名（男性 30 名，女性 21 名，平均年齢 21 歳， $SD=0.60$ ）を対象に自由記述式の質問紙調査を行った。

質問紙 (1) 基本属性（性別，年齢，学年），(2) 「将来働く目的や理由」に関する自由記述を含んだ質問紙を使用した。

結 果

記述された合計 625 個の「将来働く目的や理由」を，心理学を専攻する大学院生 4 名で KJ 法を援用し学校段階別に分類を行った。

記述された「将来働く目的や理由」は中学生 237 個（平均個数 2.39 個， $SD=1.21$ ， $range=1\sim7$ ），高校生 210 個（平均個数 2.92 個， $SD=1.55$ ， $range=1\sim7$ ），大学生 178 個（平均個数 3.49 個， $SD=1.57$ ， $range=1\sim9$ ）であった。

中学生では 26 の小カテゴリに分類され，さらに 7 つの中カテゴリに分類された (Table 1)。高校生では 24 の小カテゴリに分類され，さらに 9 つの中カテゴリに分類された (Table 2)。大学生では，26 の小カテゴリに分類され，さらに 10 の中カテゴリに分類された (Table 3)。

Table 1 中学生の将来働く目的や理由の分類

中カテゴリ	小カテゴリ数	記述数	%	主な記述
経済的向上	5	67	28.3	お金を稼ぐため
生計維持	3	47	19.8	生きるため
社会貢献	8	42	17.7	人の役に立つため
自己実現	5	39	16.5	夢を実現するため
親密な他者	3	26	11.0	家族のため
余暇活動	1	5	2.1	趣味のため
対人関係	1	3	1.3	色々な人に出会うため
その他		8	3.4	

Table 2 高校生の将来働く目的や理由の分類

中カテゴリ	小カテゴリ数	記述数	%	主な記述
経済的向上	3	50	23.8	お金を稼ぐため
自己実現	6	34	16.2	生きがいのため
社会貢献	4	33	15.7	人の役に立つため
生計維持	2	28	13.3	生活のため
親密な他者	3	23	11.0	家族を支えるため
余暇活動	2	13	6.2	遊ぶため
対人関係	1	7	3.3	人との関わりを持つため
他者評価	2	6	2.9	地位のため
自立意識	1	4	1.9	社会に出るため
その他		12	5.7	

Table 3 大学生の将来働く目的や理由の分類

中カテゴリ	小カテゴリ数	記述数	%	主な記述
経済的向上	3	42	23.6	お金を稼ぐため
自己実現	9	46	25.8	生きがいを得るため
生計維持	2	23	12.9	生活するため
親密な他者	2	21	11.8	家族を養うため
社会貢献	4	18	10.1	社会の役に立つため
余暇活動	2	5	2.8	遊びのため
他者評価	1	5	2.8	名誉のため
社会的義務	1	3	1.7	義務のため
対人関係	1	2	1.1	人間関係を作るため
自立意識	1	2	1.1	自立するため
その他		11	6.2	

考 察

いずれの学校段階においても，「経済的向上」の記述数が最も多かった。また学校段階が進むにつれ中カテゴリ数が増加することから，働く目的や理由が多様になっていくと考えられる。さらに中学生では見られなかった，「他者評価」，「自立意識」，「社会的義務」などのカテゴリが高校生や大学生では生成された。